

令和6年度 第2回千代田区男女平等推進区民会議 議事要旨

日 時	令和7年2月18日(火) 18時30分～20時
会 場	千代田区役所 4階 教育委員会室
委 員	会 長 坂本 文武 副会長 鈴木 浩子 委 員 金子 雅臣(欠席)、正木 順子(欠席)、八尾 規子(欠席)、大井 あんぬ、 不破 めぐみ、戸栗 大貴、大津 志保、永野 達也、大野 勇司、 岩崎 徳子(欠席)、鈴木 清江、緒方 亜実、畑瀬 由美、森 三千代、 森井 美木子、佐藤 尚久 事務局 国際平和・男女平等人権長 永見 由美 国際平和・男女平等人権課
次 第	1 開 会 2 議 題 (1) (仮称)「第7次千代田区ジェンダー平等推進行動計画」策定の概要について (2) ジェンダー平等の「見える化」について 3 その他 4 閉 会
配付資料	資料1 (仮称)「第7次千代田区ジェンダー平等推進行動計画」策定の概要 資料2 (仮称)「数字で見る千代田区のジェンダー」 資料2-2 ジェンダー平等の「見える化」に向けた資料(第1回会議資料) 資料2-3 ジェンダー平等の「見える化」に向けた資料(資料2-3)に関する主なご意見 参考資料 千代田区男女共同参画についての意識・実態調査報告書・概要版(令和2年度実施)

【議事要旨】

1 開 会(省略)

2 議題(1) (仮称)「第7次千代田区ジェンダー平等推進行動計画」策定の概要について

発言者	内容(要約)
坂本会長	・現在、第6次ジェンダー平等推進行動計画が進行中で、令和4～8年度の5年間計画となっている。 ・この会議では、令和7～8年度の2年間かけて、第7次の計画においてどんな姿をめざすのか、どんな施策を柱にしていくのか、というのを議論していき、令和9年度から第7次計画の施行を目指していく。
永見国際平和・男女平等人権課長	資料1のとおり ・本計画は、第4次千代田区基本構想を上位計画とし、男女共同基本法に基づく計画をベースに、配偶者暴力防止法、女性活躍推進法に基づく計画を内包している。 ・第4次千代田区基本構想の「目指すべき将来像」、「伝統と未来が調和し、躍進するまち～彩りあふれる、希望の都心～」の実現のために掲げる「多様性を尊重し認めあう

発言者	内容(要約)
	社会づくり」に向けて、区のジェンダー平等に関する施策を推進することを目的として、計画を策定する予定。 ・計画の策定の推進体制については、庁内の推進会議として男女平等推進委員会があり、関係各課と国際平和・男女平等人権課が各施策を実施するとともに、活動拠点として男女共同参画センターMIW が位置付けられている。外部会議として、男女平等推進区民会議へ区から報告や情報提供を行い、それに対しての意見・提言をいただくという体制で進めていきたい。 ・令和7年度は、18歳以上の区民、中高生の区民、区内事業所を対象とした、意識・実態調査(以下、「意識・実態調査」と記載。)を実施し、その後、本会議で、第7次計画の策定に向けた提言をとりまとめ、区長に提出する。令和7年度の本会議は3回を予定している。 ・意識・実態調査は、第6次計画で成果目標となっている項目は、必須調査とし、経年変化を見ていく予定。前回の調査内容をベースにしているが、第7次計画において、今後何をめざしていくか、どういう計画を作っていくかによって、調査内容や方法は変わってくる。区として何を深掘りして聞くべきか、アンケートの調査以外の方法でも良いので、ご意見いただきたい。
委員	調査方法は郵送、インターネットとなっているが、回収率を上げるための策略があると良い。
委員	上位計画の第4次基本構想が令和5年3月に策定されてるが、第7次計画は第4次の期間に入ってくるのか。
永見国際平和・男女平等人権課長	令和5年3月に基本構想が新たに策定された。基本構想は頻繁に変わるものではなく、第7次計画も第4次基本構想が上位計画となる予定。
佐藤文化スポーツ担当部長	基本構想は、10年20年という長いスパンで、将来を見据えた理念的な計画となっており、細かい施策は記載されていない。基本構想をもとに、分野別の計画が策定され、それをもとに各年度の予算立てをしていく関係性となっている。
委員	・千代田区は地域活動が伝統的にあり、婦人部など男女の役割分担が固定化されている地区もある。そういった伝統が良いのか悪いのかということではなく、問題提起としてアンケートに取り入れ、地域活動のあり方を聞いてみるのはどうか。 ・もう一つ問題提起として、女性の政治参画について何かできたら良い。
坂本会長	社会的な少数派の意見が届いているかという意識と実態を把握できると良い。
委員	・企業の標本数の1000社は、千代田区にある企業のうち何パーセントになるのか。統計的に正しい標本数なのか検討が必要。 ・年代別でジェンダー平等意識の違いを知りたい。年代が偏ったものにならないように、対象者を抽出してほしい。
坂本会長	年代別の分析は大事だと思うが、千代田区の年代別の回答傾向は、全国平均と比較しても特異な傾向は示していない印象もある。詳細の世代別データは全国平均を参考にし、千代田区特有なところはインタビューにするなどの組み合わせも有効ではないか。
委員	企業の女性の雇用状況や、役員・管理職に占める女性の割合というのは非常に低いので、そういった状況を調査し、実態として男女格差がどのくらいあるのか、可視化したらどうか。
委員	前回の青少年向け調査で、「理科の実験を中心的に行う」のは男子と女子どちらが多

発言者	内容(要約)
	いか、という設問があった。性別が関係あるのか、設問の必要性については確認していきたい。
坂本会長	人には必ず偏見と先入観があるので、それ自体を問題視する必要はない。ただ、それによって何らかの不都合とか格差が固定化するとか、誰かが不利益を強要されている状態を問題視するべきで、意識の偏り自体を聞く必要があるのかは議論していきたい。
委員	理科の実験と家庭科の調理実習の対比が設問にあるので、昭和の学校教育と比較して考えると質問の意図は理解できる。
委員	今のこの子供たちの様子、学校教育の状況を鑑みて、質問項目を精査できれば良いと思う。
委員	・青少年向け調査で、いくつかの項目について、学校やクラスで男子と女子どちらがその役割を担うことが多いか、という質問は、「女子より男子の方が多い」「男子より女子の方が多い」の2択しかなく、男女同程度という選択肢がないことが気になる。無回答率が他の設問より多いように感じ、回答を誘導しているように見える。質問の必要性も含めて検討が必要。 ・千代田区でもいわゆる“孤食”が問題になっているというのを聞いたことがあるので、ジェンダー平等に関するアンケートに組み込めるかはわからないが、新しい情報が入手できるという意味では検討したらどうか。
坂本会長	ジェンダー不平等に関連しそうなデータを取ることによって、何か原因がわかったり、格差のギャップを明らかにできたり、私たちが気が付いていない要因があるのではないかとはいくらか仮説を持って調査するのも良いと思う。
委員	・全体的に質問者のバイアスが強いように感じる。調査自体は男女で分けて考えるというベースがありつつも、LGBTQ にも配慮するという区の立場があり、家庭の家事分担を男女どちらが担っているかという質問に対し、LGBTQ 当事者の家庭はどのように答えるべきなのかわからない。 ・各家庭でその人が担う役割によって家事分担が変わってくると思うので、回答者が世帯主か、就労時間が家族の中で何番目に長いのかとか、そういった分類で聞いた方が良いと思う。
坂本会長	家事分担は、各家庭の価値観による場合もあり、一概にジェンダーギャップとも限らない。何か別の要因で家庭の役割分担が固定化されているのであれば、それを問題視して原因を探った方が良い。家事分担について私たちが価値判断する必要はなく、傾向がわかったところで区の施策に落としきれないのではないかと。
委員	・世帯の中に主がいる、「世帯主」という言葉に違和感がある。共働きが多いのに自治体からの通知が世帯主宛てに届いたり、世帯主を記載させる書類など違和感。 ・アンコンシャスバイアス(無意識の偏見・思い込み)は上の世代の方が強いと思うが、若者の中ではどうなのかも気になる。
委員	一口に「中小企業」といっても、従業員数が1万人ところと5人のところでは、同じ意見でも全然ちがう話のように感じる。全企業数のうち何パーセントがこの標本数にあたるのか、統計的に成り立つように調査をしてほしい。
坂本会長	何か問題が隠れてるんじゃないかという仮説を持って調査するとき、企業はどのぐらいを対象にするのか、スクリーニングをするのかということも考えながら、データが区の企業の傾向として代表できるかどうかという正当性も気にする必要がある。データを読んでわかったつもりにならないよう、ヒアリングも組み合わせしていくなどの工夫も必要。

発言者	内容(要約)
委員	DVについては男性が被害者となっているニュースも耳にするので、DV シェルターの数の比較など、男性のニーズを聞くアンケートも取り入れたらどうか。
坂本会長	一般的な調査データと、区の実績データと組み合わせながら、課題分析することも大事。
委員	今日の会議のように、これまで調べてきたことを改めて話し合うことも意味があると思う。先ほどの理科の実験についての質問も、今聞くと変わった質問のように感じるが、調査した時はそうではなかったかもしれないという時点で、皆の意識が変わってきているということだと思う。私たちが取り組んだことや積み上げてきたものの結果として、こういう風に意識が変わってきたというのを見せるのも大事。
坂本会長	今までの調査は意識や価値観を聞いているものとなっていて、ジェンダーギャップによる苦労や不利益に関する実態のデータがない。そこを分けて考えて、定点観測のデータを残しても良いかもしれない。
委員	・現行の第6次計画から、「男女平等」から「ジェンダー平等」という計画名に変更した。前回の調査時点では、「男女平等」についてのアンケートという設計になっているので、「ジェンダー平等」という視点でどう設問を組み立てるのは全体的に見直しが必要。男女という二つの性別で調査した方が差が出やすいと思うので、説明書きを入れるなどの工夫をしたらどうか。 ・LGBTQ に関する設問を、ジェンダーという視点でもう少し深掘して聞くのも良いと思う。 ・困難を抱える女性という視点があるが、一方で男性は自殺率が非常に高いなどの問題を抱えている。性別にかかわらず、すべての人権を重視するという視点でアンケートができればよい。 ・日本と世界のジェンダーギャップ指数の差が大きいのが政治と経済分野。前回の調査では、青少年に将来なりたい職業を聞いているが、どのような地位になりたいかというのを聞いたらどうか。 ・事業所向けの調査で、女性の活躍推進やワークライフバランスの取り組みなど、分かっているが実現が難しいという企業が多いと思う。私たちは人手不足が原因ではないかと推測するが、インタビューや、自由記述欄を設けるなど、理由を聞いてみてもよい。
委員	家事分担を男女どちらが担っているかという設問があるが、3組に1組は離婚するという時代で、両親揃って子どもがいるという家族像を前提とするのは変えた方がよい。多様な家族の形があることを念頭に質問の仕方を検討する必要がある。
坂本会長	家族観が多様になっているのに、それができない社会というのはどこに問題があるのかというのは、この会議で議論していきたい。
委員	・各家庭の役割分担について、現状に不満があるかどうか的大事だと思う。「男女平等」というと、男性も女性も同じだけ働き、家事をして、子育てをするというのが理想でめざすべきところという風に押し付けているように感じる。必ずしもそうではない人もいるし、不満があるかどうかを聞いて、それに対して区政がアプローチするなど、アンケートをどう使いたいかを考えていければと思う。
委員	日本は離婚すると、9割が母親が親権を持つが、共同親権が導入されることにより、その価値観が変わっていくと思う。そういった意識の変化を調査できたら面白いと思う。
坂本会長	区の施策に反映する、しないは関係なく、皆で議論していこうという問題提起としての質問があっても良い。

発言者	内容(要約)
佐藤文化スポーツ担当部長	・第5次までは男女平等推進行動計画で、第6次に今のジェンダー平等推進行動計画に名前を変えた。しかし、計画の中身見ると、ジェンダー平等というもう少し広い概念に踏み込めていないように感じる。区の次期の計画として、国や東京都より一歩先を行くような計画の中身にしていくかというのを、この会議で議論していきたい。 ・女性管理職の割合などが目標設定されているが、手段が目的化しているように感じる。数だけ達成すればよいということではないと思う。 ・令和7年度の意識・実態調査については、これから事業者を選定する予定。今後も皆さんからご意見いただき、次の計画につなげていきたい。
坂本会長	・形骸化しない、観測するためではなく何かを変えるための目標設定にしようという議論は、とても大事で、来年度以降この会議で議論していきたい。 ・次回の会議では、調査票を確認いただくので、そこでもまたいろいろなご意見をいただきたい。

2 議題(2)ジェンダー平等の「見える化」について

発言者	内容(要約)
永見国際平和・男女平等人権課長	資料2～2-3のとおり ・千代田区におけるジェンダーの平等に関連した、様々な数値をグラフや表にして、見える化をしている。ジェンダー平等がどの程度進んでいるのか、現在地を示すような資料を作成した。区民がジェンダー平等について考えて行動するきっかけになることを目指すものとしている。 ・資料2-2が前回会議にて配付した資料で、2-3が前回会議でいただいたご意見をまとめた資料、資料2がそれらをもとに作成して、公表資料のベースとなるもの。文章の掲載とか細かい部分については、改めて確認をしながら公表をするが、掲載の内容と記載の仕方について、ご意見いただきたい。
委員	4ページに日本と世界のジェンダーギャップ指数の記載があり、そこからいきなり千代田区のデータにジャンピングしているような違和感がある。都道府県のデータを入れるなど、ワンクッションあると良い。
坂本会長	・間を埋めるデータを追加するか、他のデータを参照してリンクで飛ばすなど、文脈を整える作業があってもよい。 ・印刷配布の予定はあるか。
永見国際平和・男女平等人権課長	・印刷配布の予定はなく、区のホームページにページを切り分けて見やすいように掲載する予定。
委員	LGBTQの表現について、これまでLGBTsの名称を使用していたようなので、表現の統一の方がよい。
委員	タイトル案は、案1だと伝わりにくい。案2だと分かりやすいが、千代田区のデータが入っていないものもあるので、「千代田区の現在地」とは一概に言えない気がする。例えば、平均寿命と健康寿命は、千代田区や東京都のデータになっているが、その後の問題提起として「高齢単身女性の貧困」については、全国のデータが入っている。千代田区の高齢単身女性はどうか、と読む方は期待すると思う。
委員	以前、技術職は男性が多かったが、徐々に女性が増えている。そういった推移を調査するのはどうか。

発言者	内容(要約)
坂本会長	いつ頃公開予定か。
永見国際平和・男女平等人権課長	3 月中に公開予定だが、一度公開して終わりではなく、適宜修正、更新していきたいと考えている。
鈴木副会長	10ページにある「約5倍に!」という吹き出しは目に入りやすいので、もっと増やしてもよい。
委員	・数字がパッと目に入る打ち出し方をした方が分かりやすい。大事なところにカラーリングを入れて、あとは濃淡で出すなど、視覚に訴えるようなデザインにした方がよい。 ・ジェンダーギャップ指数のページは、1位のアイスランドと比較するより、同じアジア圏の中国・韓国との比較をしたらどうか。
坂本会長	インフォグラフィックスの技術を参考にしながら、ユニバーサルデザインにも考慮できるとよい。
委員	広報千代田は全戸配付されているので、一部でも掲載してジェンダーに興味を持ってもらえるようにしたらどうか。
坂本会長	他に気付いた点があれば、随時事務局にご要望いただきたい。

3 その他(事務連絡のみ・省略)

4 閉 会